

ホテルオークラ京都周辺幕末史跡 解説



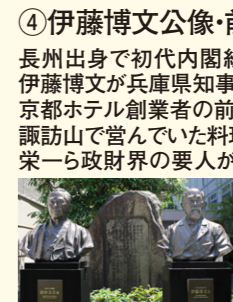
①桂小五郎像
ホテルオークラ京都の河原町通側に、その雄姿を見せる桂小五郎(後の木戸孝允)は維新三傑の一人。また芸妓・幾松との恋物語でも広く知られている。



②長州屋敷址
長州藩邸は幕末には尊王攘夷運動の拠点であったが、元治元年(1864)禁門の変で焼失をした。京都府勸業場を経て、現在はホテルオークラ京都となる。



③史跡・一之船入
一之船入は、江戸時代に京の中心部と大阪を結ぶため開かれた高瀬川に設けられた舟溜場「船入」の中で、唯一現存する貴重な交通運輸の遺跡として、国から指定されている史跡。



④伊藤博文公像・前田又吉翁像
長州出身で初代内閣総理大臣となった伊藤博文が兵庫県知事を務めていた頃、京都ホテル創業者の前田又吉が神戸市諏訪山で営んでいた料理旅館には、渋沢栄一ら政財界の要人が集った。2人の親交が深かったことから、京都ホテル創業130周年の記念に銅像が建立された。



⑤久坂玄端ゆかりの天照神社
長州藩京屋敷内の稲荷社が明治時代に京都ホテルへ引き継がれ平成10年(1998)4月に伊勢神宮の式年遷宮のご神木を頂き創建。同年12月に天照神社に合祀された。



⑥幾松・桂小五郎寓居址
幾松は、桂小五郎が命の危険にさらされていたもともと苛烈な時代、潜伏中の彼を必死にささえつけ、のちに妻となる女性である。



⑦佐久間象山・大村益次郎遭難之碑
佐久間象山は元治元年(1864)に尊王攘夷派の凶刃に倒れ、また陸軍の祖大村益次郎は明治2年(1869)に同じく刺客に襲われている。
※三条小橋北西角には案内の碑がたつ



⑧佐久間象山寓居之址
公武合体や開国論を説いた幕末における洋学の第一人者。吉田松陰をはじめ、坂本龍馬や勝海舟もその門下にて一時名を連ねたことがあった。



⑨武市瑞山寓居之跡
土佐藩郷士。同郷の坂本龍馬(遠縁でもある)や中岡慎太郎ら同士を集めて土佐勤皇党を結成した。文武両道に秀で、のちの戯曲「月形半平太」のモデルにもなった。



⑩吉村寅太郎寓居之址
土佐勤皇党に参加。後に天誅組を組織して奈良で挙兵するも、文久3年(1863)9月吉野にて戦死。



⑪池田屋騒動之址
元治元年(1864)、近藤勇・沖田総司ら新選組が、池田屋にて密談中の志士を急襲した。坂本龍馬と親交の深かった望月亀弥太も命を落とした。



⑫酔屋
「酔屋」は享保6年(1721)よりつづく材木商。龍馬はこの二階に海援隊京都本部を置き定宿とした。現在も当時の面影を残し、一階は木工芸品「酔屋」として営業、2階は「ギャラリー龍馬」として資料が展示されている。



⑬土佐藩邸跡
土佐藩邸は高瀬川の西側から河原町通に至る間にあった。最初の脱藩をゆるされた坂本龍馬は、ここで「御叱り」として7日間謹慎をしていた。



⑭岬神社(土佐稲荷)
貞和4年(1348)、鴨川西寄の中洲の岬に祀られたのが起こり。江戸時代初期に土佐藩邸内に遷座された。境内に小さな坂本龍馬像がたてられている。



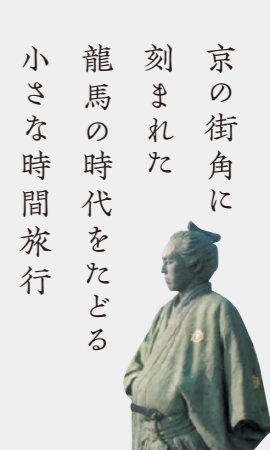
⑮坂本龍馬 中岡慎太郎遭難之地(近江屋跡)
慶応3年(1867)11月15日の夜半、土佐藩御用達の醤油商近江屋において、坂本龍馬と中岡慎太郎は凶刃に倒れた。犯人については諸説あるが詳細は不明。



⑯中岡慎太郎寓居之跡
土佐藩出身の志士。龍馬の盟友。薩長同盟・薩土同盟の締結に尽力した。ここは脱藩後の中岡が下宿していた土佐藩御用達書林菊屋跡。



⑰金蔵寺跡
元治元年(1864)8月、坂本龍馬とお龍は青蓮院塔頭金蔵寺の本堂にて「内祝言」を挙げている。その時の様子はお龍の回想録に詳しい。



京の街角に刻まれた龍馬の時代をたどる小さな時間旅行



坂本龍馬家紋 “違榊桔梗”